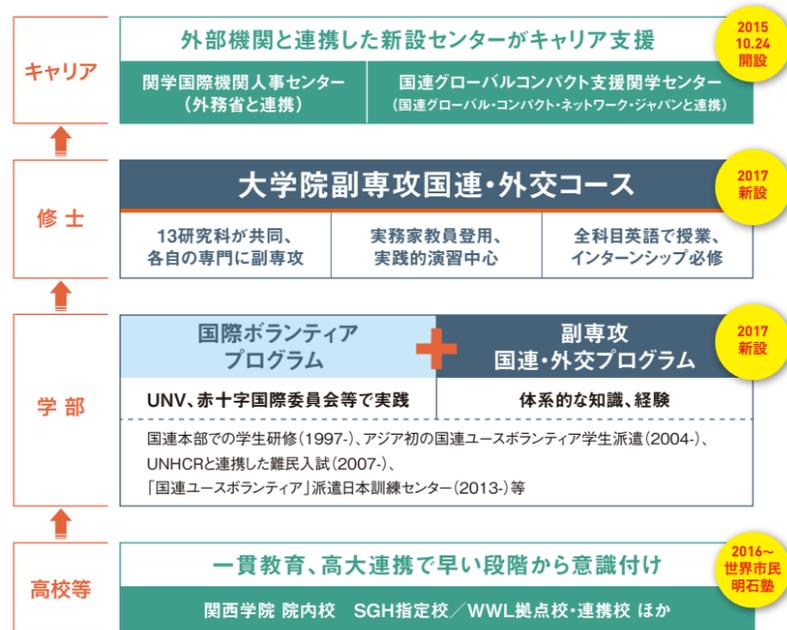




関西学院大学  
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

「国連・国際機関等へのゲートウェイ構築」

SDGsの推進をリードする人材を育成



2019年度には全学組織としてSDGs推進本部を立ち上げ、関西学院大学SDGs宣言に基づきながら、教育、研究、経営という大学の営み全体を通じていかに貢献していくか検討を本格化させています。特に、関西学院大学は「国連と連携した教育プログラム」について日本をリードしてきた存

在でもあります。この継続発展強化を通じてSDGsの推進をリードする人材育成をいっそう加速させることを視野に入れていきます。国連と連携したプログラムでSDGsリーダーを育てる

関西学院大学は2004年度、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」(SGU)に採択されました。SGU事業として展開している「グローバル・アカデミック・ポート構想」の柱の一つが「国連・国際機関へのゲートウェイ構築」です。

関西学院大学は2004年度から、アジアで初めて国連ボランティア計画(UNV)との協定に基づく開発途上国への学生ボランティア派遣を始め、現在は赤十字国際委員会(ICRC)や数多くの国際NGOなども連携を広げています。この「国際ボランティアプログラム」では、学生は約5カ月間にわたり主に開発途上国に派遣され、SDGsの達成に向けて現場の最前線で活動します。2018年度までに35カ国276人を派遣しており(詳細は次ページ参照)、特に「国連ユースボランティア」としての学生派遣は累積100人を超えました。これらの実績を基に、高校と大学(学部)との接続から大学院、そして卒業・修了後まで通貫した教育プログラムで、「世界の公共分野で活躍



国連ユースボランティアとしてタンザニアで活動する学生(前列左から3番目)。SDGs普及のためのイベント企画・運営も主要な業務の1つ。

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

“Mastery for Service” for SDGs Initiatives  
～SDGs推進をリードする人材を育てる～

SDGsへの貢献を通して  
スクールモットーを実践

関西学院は、1889年にアメリカ人宣教師W・R・ランバスによって創立されました。ミッションステートメントとして、「思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育む」ことを掲げています。“Mastery for Service”は「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕え、より良い未来を創造していくために自らを鍛えるというあり方を示します。

これらの理念は、「持続可能な開発に向けて我々の社会を変革することを目指すSDGs」と通底しています。そこで、関西学院大学はSDGsに関する取り組みの総称を“Mastery for Service” for SDGs Initiatives」と銘打ち、SDGsの達成に向けての取り組みを、大学を挙げてスクールモットーを実践する機会と捉えて積極的に展開しています。

するグローバルリーダー」を育成することを目指しています。「国連・国際機関へのゲートウェイ構築」の核となるのは、複数の大学院研究科が共同で設置する大学院副専攻「国連・外交コース」です。日本を代表する「ミスター国連」、明石康氏(元国連事務次長)を筆頭に、村田俊一(総合政策学部教授(前国連アジア太平洋経済社会委員会)ESCAP)事務局次長、久木田純氏(前国連児童基金(UNICEF)カザフスタン事務所代表)らを教員として登用。神余隆博(国連・外交統括センター長(元ドイツ大使)・国連日本政府代表部大使)のリードの下、実践的な演習科目を中心としたカリキュラムを編成しています。また、同コースに



